

# わがまち自慢 ～村長室から～

ひがしどおりむら  
青森県東通村  
えちぜん やすお  
越善 靖夫 村長



4月から5期目の村政の舵取りを負託されました。これまでの4期16年の中で私が最も力を入れてきた政策が教育改革<sup>\*1</sup>、そして保健・医療・福祉の連携による包括ケアです。

教育改革に取り組んだのは、東通村の宝である子供たちをしっかりと支えることが我々の責務であり、そのためには教育環境を整える必要があると考えたからです。

かつて東通村には小学校が20校、中学校が17校ありましたが、複式学級が多いこともあり、学力が伸び悩んでいました。村の将来の発展を考えたとき、都市部と同じレベルの教育を受けられる環境を整備して学力の向上を図るとともに、多くの人達と交流する中でコミュニケーション能力や競争意識を高めなければならぬと考えました。そこで、乳幼児から中学校までの幼・小・中一貫教育を実現するため、小学校と中学校を段階的にそれぞれ1校に統合し、昨年には幼稚園や保育所を統合して認定こども園を開設し、「1+5・4制」として取り組んでいます。

小 学校では1クラス25人の少人数クラスや教科担任制、習熟度別クラスを導入したり村独自に教師を採用したりするほか、小学1年生から英語科を設けて英語教育を

展開しています。さらに、子供たちが郷土を理解し愛する心を育むため、「東通科」を設けてエネルギーや郷土理解などに関する『東通学』を教えています。

東通村には、500年以上も前に熊野の山伏によって伝えられたとされる、国の重要無形民俗文化財に指定された「能舞」<sup>\*2</sup>などの民俗芸能があります。冬期間は雪に埋もれる厳しい環境下で、伝統芸能を楽しみながらしっかりと受け継いできたものです。東通村では、昔から各集落で作業をするときは共同で行ってきた歴史があり、能舞の伝承も集落全体で行われてきました。学校でも『東通学』で能舞について触れ、子供会活動などで伝承活動を行っています。

これまで東通村の子供たちの学力は、青森県の平均レベルに達していませんでしたが、現在は県平均を超えるまでに至りました。改革の成果が表れ始めているものと思います。幼・小が一貫した教育が本格化すると、さらにレベルが向上するものと期待しています。

教 育改革に加えて、保健・医療・福祉が連携し、子供からお年寄りまでを対象とした包括ケアの推進にも力を入れています。村が保健福祉センター<sup>\*3</sup>と診療所、介護老

人保健施設の複合施設を建設し、公益社団法人地域医療振興協会に運営を委託しています。昨年からは「元気ですカー」という名称の地域巡回型車両を村内に走らせ、行政と医療機関が連携して家庭を訪問し、ヘルスプロモーションを推進しています。

これら施設の整備はもとより、教育改革も包括ケアの取り組みも、原子力発電所に関連した交付金や固定資産税などの財源があるからこそ実現できたことです。四十数年前に先人が原子力発電所の誘致を決断し、以来、東通村は原子力との共生を図ってきました。そして、この村に有形無形の財産を遺してくれました。先人たちは何十年も先を見据え、当時の厳しい生活環境を何とか改善したいと願って誘致を決断したのだと思います。私はそのような英断を下した先人達を誇りに思います。私たちは、先人の想いを受け継いで「いつまでも住んでいたい、住んでみたくなる村」づくりの挑戦を続けます。(談)



### ※1 東通小学校の英語授業

こども園、小学校、中学校を一体で整備し、「1+5・4制」の幼小中一貫教育に取り組んでいる。小学校1年生から英語科を正規教科として設置し、英語教育に力を入れている。

### ※3 東通村保健福祉センター

隣接する診療所、介護老人保健施設とともに、保健・医療・福祉が連携した、質の高い包括ケアの拠点になっている。



### ※2 能舞

国の重要無形民俗文化財に指定されている能舞は、この地に伝えられてから500年以上も長い間、集落ごとに継承されてきた。

